

## 2022 年度第 2 回 一般社団法人日本箱庭療法学会研修会のお知らせ

主催：一般社団法人日本箱庭療法学会

日 時： 2023 年 2 月 19 日（日）12：00～17：30（受付 11：30～）

会 場： A P 品川（東京都港区港南 1-6-31 品川東急ビル 8F）

### ご挨拶

日頃、さまざまな心理臨床の現場に携わっておられる皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2022 年度第 2 回の全国研修会を AP 品川で開催いたします。今回も、前回に引き続き、オンサイト参加とオンライン参加のハイブリッドで開催させていただきます。

全体会では、当学会の編集委員でもある京都大学の梅村高太郎先生にご登壇頂きます。

梅村先生はさまざまな臨床現場で思春期男子の心理療法の実践を積んでおられます。そして箱庭や夢、描画やプレイなどイメージを重視しながら、同時に、思春期男子のこころの動きを捉えるうえで、彼らが示す「身体化」に着目しておられます。『思春期男子の心理療法』（創元社 2014）という梅村先生の著作は、思春期男子の臨床に関わる方たちにとっての必読本と言ってもいいでしょう。思春期女子に比べて、言語表現が彼らの本質に届かない部分も多い思春期男子に対して、彼らが示す「身体化」がどのような課題を表現しているのか、それを治療的にどう捉えていくのか、詳しくお話いただけることと思います。

後半では、震災対策分科会を含め、6 つの分科会を設けております。事例を募集している分科会もございますので、どうぞ奮ってご応募下さい。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

2022 年 12 月吉日

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修委員長 岩宮恵子

### <開催要領>

#### 1. 定 員：250 名（オンサイト／オンライン）

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場に会場いただく「オンサイト」参加と、ZOOM を使用して視聴していただく「オンライン」参加の選択可能な混合開催となります。なお、今後の感染状況等に応じて、開催方法など変更の可能性がありますのであらかじめご了承ください。

#### 2. 参加資格：心理臨床の事例に関して守秘義務を負うる、以下の条件のいずれかを満たす方とします。

- ①一般社団法人日本箱庭療法学会会員
- ②箱庭療法を導入・または導入を検討中の児童相談所・児童養護施設等の心理職に従事されている方
- ③臨床心理学およびその関連領域で心理臨床の実践的な仕事に従事されている方
- ④心理臨床を専攻する大学院生

#### 3. 参加費：学会員：4,000 円 非会員：7,000 円 大学院生（非会員）：5,000 円

#### 4. 研修ポイント：本研修会への参加は、臨床心理士教育・研修規程別項第 2 条（3）により、一般参加者は 2 ポイント、事例呈示者は 4 ポイント取得となります。

### 研修内容：

#### (1) 全体会：12：00～14：00

テーマ：「思春期男子の身体化と心理療法——主体の確立に果たす否定の意義」

講 師：梅村 高太郎（京都大学大学院教育学研究科）

<概要>

思春期を迎えた子どもは、生理的・心理的・社会的な次元で劇的な変化を体験し、その過程で主体を確立させていく。しかし、その“大人になる”という難題への取り組みの途上で、さまざまな精神症状や問題行動などを呈する者もある。特にこの年代の男子は、その問題を葛藤や苦悩といった心理的なものとして抱えたり、言葉で捉え扱ったりすることがいまだ難しく、身体症状という形でその問題を表現・体験することも多い。本講演では、こうした身体化を呈する思春期男子の事例を取り上げ、彼らが心理療法を通じて主体を確立していこうとするプロセスを提示し、その心理療法において“否定”の契機に着目することの意義について示したい。

(2) 分科会：14：30～17：30

以下の6グループに分かれ、分科会を行います。

**事例呈示を募集している分科会は、概要の最後に<事例募集>の表記のある分科会です。事例呈示希望者は、「5. 参加・発表申込について」をご参照の上、お申し込みください。**

● 第1分科会 梅村 高太郎（京都大学大学院教育学研究科）

『身体化の心理療法——心身症概念の批判的検討から』

心理臨床実践において、喘息・アトピー性皮膚炎といった心身症疾患や、心理的要因によって運動・感覚機能に異常が生じる転換症状など、何らかの身体症状を抱えたクライアントに出会うことは少なくない。そうした事例は医療現場に限られた話ではなく、例えば、不登校の初期段階では頭痛・腹痛・吐き気といった身体症状が訴えられることが多いし、より幼い子どもでは、あらゆる心理的な問題が身体的に表現されるとも言えるだろう。こうした心の問題が身体を通じて表現され、体験される“身体化”という事態において、一体何が問題となっているのか、その心理療法において何がなされるべきか。本分科会では、特に心身症をめぐる言説を批判的に振り返ることを通じて、この問いにアプローチする。さらに、本テーマに関連した事例を参加者から提示いただき、その検討を通じて、身体化の心理療法について考えを深めたい。

**<事例募集>** ※心身症疾患や転換症状などの身体症状を抱えた事例、あるいは何らかの形で身体がテーマとなる事例が望ましい。

● 第2分科会 桑原 知子（放送大学）

『箱庭のもつ「力」について考える』

箱庭は独特な「力」をもっているように思われる。もちろん箱庭「療法」と言われるのだから、箱庭を置くことそのものに治癒「力」があると考えられるだろう。では、この「力」とはどのようなものなのだろうか。さらには、なぜ「その」アイテムを「そこに」置きたくなるのかわからないのだが、何かが自分に置かせているように感じたりもする。あるいは、自分が箱庭のなかに置いたアイテムが誰か他の人に勝手に動かされるのを見ると、とてもいやな気分になったりする。こういった場合、箱庭のなかにまるで磁場のような「力」が働いているように感じられることはないだろうか。今回は、こうした箱庭のもつ「力」について考えてみたい。

**<事例募集>** ※箱庭を含む事例を募集します。どんな場所でなされたものでもかまいませんし、1枚のみの箱庭提示でもかまいません。考えてみたい、と思う箱庭があれば、積極的に申し込んでください。

● 第3分科会 岩宮 恵子（島根大学）

『衝動的なエネルギーの水路づけとしての「物語」』

最近、中学校よりも小学校での衝動的な暴力や暴言が問題になることが多い。SCとして関わっていても、衝動性のコントロールの問題は必ず出て来る。感情のコントロールについて心理教育をするという方法も大切ではあるが、なかなか根本的な問題に届かないことも多く、悩ましい。

今回は、SCの枠組での小学校の事例を通して、衝動性がとても高いクライアントが、面接という器のなかでどのような「物語」を展開していくことができたのかについて考えていきたい。衝動性の裏側には、繊細な感受性が存在していることもあること、そして面接の枠内で自分自身の物語を生成していくことが、衝動的なエネルギーの水路づけになっていくプロセスについても、フロアのみなさんと深めていきたい。

（事例提供者：鹿野友章氏）

● 第4分科会 河合 俊雄（京都大学人と社会の未来研究院）

『つかみにくいイメージへのアプローチ』

描画による見立てにおいて、たとえば風景構成法の構成型から病態水準や発達障害の程度がわかったり、セラピー中の夢でも主体の弱さがテーマになったり、逆に他者との関係が展開したりなど、これまでのイメージへのアプローチが通用しやすいものではないイメージにどう取り組んだらよいかを検討したい。近年、古典的な事例でも、発達障害的な事例でもないようなものが増えていくように思われることを考慮したい。

（事例提供者：北山純氏）

● 第5分科会 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

『心理療法におけるスクイグルの活用とその理解』

創始者のウィニコットがスクイグルを「夢に至る技法」として位置づけていたことはよく知られている。スクイグルは実際、精神病圏から発達障害圏まで、子どものセラピーから大人のセラピーまで、幅広く活用しうる技法であり、クライアントがそこに「絵」として投影するイメージのみならず、クライアントが出す「なぐり描き」のあり方をも読み取っていくことや、手を動かして「絵」を描いたり「なぐり描き」をしてもらったりすることそれ自体に治療的な意味がある。この分科会では、学習院大学臨床心理相談室の小塩佳子氏に事例提供をお願いし、このような「スクイグルの活用とその理解」について考えたい。

（事例提供者：小塩佳子氏）

- 震災対策用分科会 1 (S1) 岸 良範 (福島学院大学客員教授・茨城大学名誉教授)  
渡部 純夫 (東北福祉大学)

### 『福島の12年と今後の問題』

東日本大震災から2023年3月11日で12年という節目を迎えます。干支でみていきますとちょうど一回りしたことになります。12年という年月が経過したというのに最大震度6強の「大余震」が1年おき、ほぼ同じ時期に続き、被害を受けた家屋の修理をしたとしても再び被害に遭うという状況です。この「元の木阿弥」状況は、ボディブローのように心にダメージを与え、その深層には謂わば「学習性無力」感が漂っています。また、その「大余震」の揺れが治まったとしても同時に「原発は大丈夫か?」「放射能は漏れ出していないのか?」という心配と恐怖、そして不安が「凶」として浮かび上がってきます。そのことは福島は未だに原発との戦いの中におり、被災「中」であることを示すことになります。

そして汚染処理水の福島沖での海洋投棄の問題と、次から次へと県民を無力に貶める問題が立ち上がっています。そして汚染土の処理(県内に中間処理場を設けたまま、最終処理場が決まっていない、つまりはなし崩し的に中間処理場は最終処理場にするのだらう)、汚染処理水の福島沖での海洋投棄の問題は、「福島の汚れは外に持ち出すな」との「地産地消」の方向に政府が舵執りをしているように思えてなりません。そして最も恐ろしいことは福島では今何が起きているのかが多くの国民にとっては忘れ去られてしまっているのではないかということです。時間の針をもう一度あの日に戻し、何があったのかを再検証することが必要です。そして「無力感」の中でも、状況が生み出してくる課題に対して、今できる事・しなければならぬことについてひたすら応えようとする箱庭療法学会員、および臨床心理士の仲間たちの姿を忘れてはならないように思います。

そのような状況の中で、今回は話題提供者として特に原発問題を抱える浜通りの子供たちの問題対応し続け、県との粘り強い交渉の中で「ふくしま子どものこころのケアセンター」を立ち上げた安部郁子先生(福島大学)とそのスタッフである佐藤則行先生(福島県臨床心理士会副会長)の二人をお迎えし、現在の活動状況から見えてくる福島の子供たちの心理学的問題について話していただく予定です。皆様のご参加をお願い致します。

(報告者: 安部郁子先生・佐藤則行先生)

## 5. 参加・発表申し込みについて

### WEBによる参加・事例発表申込方法

#### 【参加申込】

当会ホームページ (<http://www.sandplay.jp/training.html>) および右記 QR コードの申込フォームよりお申し込み下さい。申し込みが完了しましたら、自動返信メールが送信されます(※パソコン、スマートフォン対応)。自動返信メールが届かない場合は、日本箱庭療法学会全国研修会事務局 ([training\\_jast@sandplay.jp](mailto:training_jast@sandplay.jp)) までお問い合わせ下さい。



#### 【秘密保持に関する誓約書の提出について】

参加申込完了後に誓約書フォームへの入力画面に移動しますので、内容をご確認いただき、必要事項にご記入ください。参加申込時に提出できなかった場合は、右記の「QRコード」よりフォームにアクセスしてご提出ください。

誓約書をご提出いただけない場合は、大会・研修会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止、研修会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますこと、ご了承くださいようお願いいたします。



#### 【事例発表申込】

上記の参加申込フォームよりお申し込みいただけます。事例発表を「希望する」にチェックし、申込フォーム上にある<事例概要記入シート>にご記入の上、別途メール添付で日本箱庭療法学会全国研修会事務局 ([training\\_jast@sandplay.jp](mailto:training_jast@sandplay.jp)) までお送りください。参加申込締切後、事例発表の可否について、事務局よりご連絡いたします。

※<事例概要記入シート>は、当会ホームページからもダウンロードしていただけます。

※ **事例発表申込締切：2023年1月18日(水)【必着】**

※ **参加申込締切：2023年2月1日(水)【必着】**

- ・お申し込みは、原則として先着順とさせていただきます。
- ・分科会コースの通知はおこなわず、お申し込みいただいた分科会で受付けさせていただきます。
- ・定員となった分科会より締め切らせていただきます。希望者多数の場合にはご参加いただけない場合もございますので、予めご了承ください。

## 6. 参加費振込について

- ・自動返信メールを受領後に、以下の口座へ参加費をお振込みください。

### <郵便局・ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

振込先：00900-8-233788

加入者名：一般社団法人日本箱庭療法学会研修委員会

### <他金融機関から振り込まれる場合>

銀行名：ゆうちょ銀行

店番：099

預金種目：当座

店名：〇九九店(ぜろきゆうきゆう店)

口座番号：0233788

- ・振込される際に、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入のうえ、お手続きください。(例：8528 ハコワカワ)
- ・振替用紙を使用される場合、通信欄には「2022年度第2回全国研修会参加費」と自動返信メール内に記載されている【受付番号】とお名前をご記入ください。(例：8528 ハコワカワ)
- ・納入された参加費のご返金はできませんので、予めご了承ください。

### ※ 参加費振込締切：2023年2月3日(金)

## 7. 研修ポイントについて

全体会、分科会の両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、受講者には2ポイント、分科会での事例発表者には4ポイントが付与されます。参加証が研修証明書の代わりになりますので、オンライン参加される方で参加証をご希望の方は申込時に「参加証の発行について」の項目で【希望する】にチェックを入れてください。

## 8. 参加証について

オンラインで参加された方には、当日受付にて参加証をお渡しいたします。

オンラインで参加された方には、終了後に参加ログにて出席確認を行い、参加が認められた方のみ送付いたします。

送付までにお時間を頂戴いたしますので、ご了承ください。なお、終了後1ヵ月を過ぎても届いていない場合は、[training\\_jast@sandplay.jp](mailto:training_jast@sandplay.jp) までお問い合わせください。

## 9. 会場案内

<東海道新幹線・JR 各線・京浜急行線をご利用の場合>

「品川駅」港南口より徒歩6分

※アクセスの詳細については、AP品川のホームページをご参照ください。

(<https://www.tc-forum.co.jp/ap-shinagawa/access/>)

## 10. 研修会に関するお問合せ先

一般社団法人日本箱庭療法学会 研修会担当

住所：〒541-0047 大阪市中央区淡路町 4-3-6 新元社内

E-mail：training\_jast@sandplay.jp

